2　校内支援の実際

(1)　指導方針・長期目標の決定

校内学びの支援委員会では、特別な教育的支援の必要な子どもの学習や生活・行動の状況などを踏まえた上で、どこに重点を置いて必要な支援を行うか指導方針（願い）や目標の検討を行います。
ここで決定した目標は、個別の教育支援計画や個別の指導計画の長期目標、短期目標となっていきます。

指導方針・長期目標の検討例

気付き

実　態　把　握

実態（学習や生活・行動の状況）

【学習】
- 文字を書くことにやや時間がかかる。
- 静かに席に着いていることや人の話を最後まで聞くことが難しい。

【行動】
- 遊びやゲームの勝敗にこだわり、自分が勝てない時に友達に手を出すことがある。

【生活】
- 道具の後片付けや整理が難しく、忘れ物が多い。

【対人面】
- 友達への関わりが衝動的であったり、一方的に自分のペースで会話を進めたりすることからトラブルになることがある。
- その場の雰囲気を読み取ることが十分にできない。

チェックリストを参考にした実態把握で『友達とのコミュニケーション』や『社会的なルールの理解』などに課題があることが分かりました。

【本人のよさ、特性】
- 計算が早く正確にできる。
- 漢字の知識や地下鉄の知識が豊富である。

【保護者の願い】
- 学年相当の読み書きは習得させたい。
- 人との適切な関わり方を身に付けさせたい。
- 楽しく学校に通ってほしい。

指導に役立てるために、子どものよさや特性にも着目します。

【考えられる困りの背景】
- 聴覚からの情報だけでは、イメージをすることが苦手である。
- 集中の持続が短い。
- 衝動をコントロールする力が弱い。

困りの背景（要因）として考えられることを探り具体的な手だて等に生かしていきます。

校内学びの支援委員会等で検討します!

指導方針・長期目標の決定

○一定の時間、学習に集中して取り組むことができる。
○自分で身の回りの整頓整頓ができる。
○友達に対して気持ちをコントロールできる。

指導の重点を検討し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に繋げていきます。

指導方針・長期目標の例

学　　習　　面	生　　活　　面
○学習に参加することができる。 ○学習に取り組む姿勢を身に付ける。 ○学習課題に主体的、意欲的に取り組もうとする。 ○学習に集中して取り組むことができる。 ○文字や数への理解を深め、学んだことを生活に生かす。 ○文字の読み書きの苦手さを軽減する。 ○読み書きや数量に関する初歩的な内容について理解し、自信をもって取り組むことができる。 ○文字の読み書きの苦手さや図形問題の苦手さを軽減する。 ○簡単な文章の読み取りや、計算等の基本的な学習内容の理解を高める。 ○基礎的な学力を高めていく。 ○基礎的な学力の定着を図り、自己肯定感を高めていく。 ○日常生活で必要な、基礎的な学習の理解を高める。 ○課題のある学習や活動に、意欲的、主体的に取り組む。 ○苦手な・・・の教科に主体的に取り組む。 ○苦手な・・・の教科の初歩的な内容について理解する。	○コミュニケーションの力を高める。 ○自分の思い等について適切に話すことができる。 ○自分の考えを言葉で表現する力を身に付ける。 ○自分の意思を表現する力を身に付ける。 ○話題に沿って話したり、順序よく説明したりできる。 ○適切に言葉を解釈する力を身に付ける。 ○友達との関わりを通して、やりとりする力を身に付ける。 ○相手の気持ちや状況を判断する力を身に付ける。 ○対人意識を育てるとともに、社会性やコミュニケーション能力を身に付ける。 ○社会性を身に付けるとともに、状況に応じた適切な言葉を習得する。 ○社会性を高める。 ○状況に応じた適切な言葉や場に合った話題を選ぶ力を身に付ける。 ○適切な感情の表現や気持ちのコントロールができる。 ○落ち着いて行動できるようにする。 ○場に合った行動をとる力を身に付ける。 ○小集団における人と関わる活動の場面で、主体的に参加することができる。 ○学校生活における成功体験を積み重ね、自信をもって様々な活動に参加できる。 ○気持ちが不安定になった時の対応の仕方を身に付ける。 ○自分の気持ちを安心して表出できるようにする。 ○本児の興味・関心を高め、見通しをもって課題に取り組む。 ○基本的な生活リズムや生活習慣を形成する。 ○興味・関心の幅を広げていく。

メモ

長期目標と短期目標

明確に期間が決められているわけではありませんが、長期目標は１年後、あるいは２年後といった比較的長期間を見通し、こうなってほしいという姿をイメージして目標を設定します。

短期目標は、より具体的に学期や月、単元終了までなど短い期間で目標を設定します。

(2) 短期目標と具体的な手だてや合理的配慮の検討

重点とする指導方針（願い）や長期目標を設定したら、より具体的な目標や支援のための具体的な手だてや合理的配慮を検討します。それぞれの子どもが困っていること（課題）は、学習面、生活面、心理面など様々です。困っていることの背景（要因）として考えられることを探り、具体的な手だてや合理的配慮を検討することが大切です。

また、具体的な手だては、「全体の授業等の中で工夫」「個別の支援」「補充的な指導での支援」の３つの場面に分けて考えることができます。

指導方針・長期目標、短期目標、具体的な手だてや合理的配慮設定の例

気付き・実態把握

※13Ｐの例を参照

指導方針・長期目標

○一定の時間、学習に集中して取り組むことができる。
○自分で身の回りの整頓整頓ができる。
○友達に対して気持ちをコントロールできる。

短　期　目　標

○人の話を集中して聞くことができる。〈Ⅰ〉
○忘れ物を少なくする。〈Ⅱ〉
○遊びやゲームに負けても怒らない。〈Ⅲ〉

【考えられる困りの背景】
・耳からの情報だけでは、イメージをすることが苦手である。
・集中の持続が短い。
・衝動をコントロールする力が弱い。

手立てや合理的配慮

目標／場面	Ⅰ　人の話を集中して聞くことができる。	Ⅱ　忘れ物を少なくする。	Ⅲ　遊びやゲームに負けても怒らない。
全体の授業等の中で工夫	・視覚的な手がかりを活用しながら説明をする。 ・小集団で話し合う場面を設定して、成功体験を得られるようにする。		・遊びやゲームに入る前に、負けた時の約束を全体で確認する。 ・心の動きをイラストや数字で視覚化して教える。
個別の支援	・話し始める前や話の途中で個別に声がけを行う。	・大切なものは繰り返し注意喚起を促す。 ・大切なものはメモを渡す。	・望ましい行動が見られたときは、その機会を見逃さずに承認する。
補充的な指導での支援		・保護者に協力をお願いし、連絡帳と持ち物チェックリストを準備し、家庭で一緒に確認してもらう。	・通級指導教室における小集団活動などにおいて、適切な行動の仕方を考えることができるようにする。

手だてや合理的配慮のヒント

具体的な手だてや合理的配慮を考える際のヒント（参考）としてください。

基本的な手だて

1　視覚的情報を活用する

聞いて言葉を理解する能力よりも、見て理解する能力の方が優れている子どもがいます。言葉での説明や指示を理解しづらい子どもに、授業の中でICT機器を活用して視覚的に分かりやすく提示する、用件を紙などに箇条書きにして個別に渡すなど、目で見て理解できるような手だてを工夫しましょう。

2　環境を構造化する

視覚的な刺激への反応が強いために、雑然とした環境の中での学習は苦手な子どもがいます。例えば、授業の流れを黒板等に明確に示す、学級で物の置き場所を明確に決めておく、またケースによっては個別的な指導ができる刺激の少ない場所を活用するなど、情報を整理した分かりやすい環境づくりに配慮しましょう。

3　ルールや指示を明確にする

言葉の能力が高くても、「暗黙のルール」の理解が困難な子どもがいます。あいまいな指示や言外の意味の理解を求めることは避け、指示やルールをできるだけ明確に伝えましょう。また、急な予定の変更など、見通しがもてないことへの不安が強いので、絵や写真などを使用して、１日や１時間の授業の流れ、行事の行程を知らせるなど、見通しをもてるようにしましょう。

4　学習場面で工夫する（全体の授業の中や個別の支援において）

⑴　注意の選択が上手にできない子どもは、一度にたくさんの情報が与えられると混乱してしまいます。指示をするときは分かりやすくはっきりと、長い説明は避けて、一つ一つ情報を提示するようにしましょう。

⑵　いつまでに、どこまで取り組めばよいのか判断することが難しい子どもには、到達のゴールを具体的に（時間や問題数など）示すなど、活動の見通しをもたせるよう工夫しましょう。

⑶　長い時間集中することが苦手な子どもには、授業は多様な活動を組み合わせて区切りを設けるようにするとともに、こまめに努力を認める声かけをしましょう。また、ちょっとした息抜きや小休止で、気分転換できるようにしましょう。

⑷　最初はやる気満々でも、途中で集中力が落ちる子どもがいます。最後まで学習や活動に取り組み、成功体験を積み上げることができるよう、学習内容を細分化（スモールステップ化）したり、具体的な手掛かりの提示を行ったりしましょう。

⑸　目標や約束は学級のめあてとして、分かりやすく絵や文字で提示することも有効です。

⑹　座席は刺激が少なく、個別の対応がしやすい位置にするなどの配慮に心がけましょう。

⑺　認められたい、注目されたいという気持ちが強い子どもには、全員が発表の機会をもつようにしたり、個別に役割を与えたりして存在価値を意識させましょう。

5　行動面の対応を工夫する

⑴　因果関係よりも状況に依存した行動を取る子どもには、まずは、過去のことをいろいろもち出さずに、今起きたことについて解決を図りましょう。

⑵　注意や叱責で問題となる行動をやめさせる対応よりも、何が認められる行動なのかを具体的に教えていきましょう。

⑶　自尊感情（セルフエスティーム）に配慮し、「個人」ではなく「行動」を叱るようにしましょう。友人関係にも配慮し、他の子どもの前で叱らないようにしましょう。

⑷　問題行動が起きているときは、かなり興奮した状態にあるので、強く叱るのではなく気持ちを受け止めるようにしましょう。また、少し落ち着いてから話をしましょう。

⑸　経験から問題行動の生起があらかじめ予想される場合は、直面させるよりもできるだけ避けられる工夫を検討します。援助しても問題を起こさずに済んだ経験を積ませることが大切です。

⑹　校内で落ち着ける場所や人を確保することは、行動を調整する手掛かりとなります。

子どもの困りに応じて

文字を書くことが苦手

例　○鏡文字になる。(「＜」→「＞」などのように、左右が反転した文字)
○マス目や行からはみ出してしまい、判読しにくい文字になる。
○漢字は覚えにくいので、平仮名ばかりの文章になる。
○漢字の細かい部分の書き間違いが多い。(横線が一本多いなど)
○作文や日記を書けない。
○教科書の文や板書をノートに書き写すのに時間がかかる。

【考えられる困りの背景】
- 鉛筆がうまく持てない。
- 文字を書くときに、手や腕がスムーズに動かせない。
- 漢字の形を思い浮かべることが苦手である。
- 書く内容をまとめる力が弱い。
- 記憶があいまいで、空間の位置関係や聞いたことを覚えることが苦手である。

手だてや合理的配慮のヒント

□書くことが苦手な場合には、手先が不器用なことや目と手の協調運動がスムーズでないことが多い。器用さを高め、目と手を同時に使うような遊びやゲームを取り入れる。
□自分の体を中心とした空間的なイメージをもちにくい子どもがいるので、体を大きく使う運動によって、上下、左右、奥行きなどの空間を認知する力を育てる。
□文字の形と読みが結び付きにくいために文字が書けない子どもの場合、漢字の学習では「意味付け」(木がたくさんで「森」)や「文字書き歌」(まるいわなげの「わ」)などで覚えさせる。
□抽象的な意味を表す熟語では、その事をイメージできるように視覚的な情報との関連を図る。
□口述筆記などにより、作文の内容をまとめ、それを少しずつ書き写すようにしていく。
□使用する鉛筆の濃さやノートの行間、マス目などの工夫をする。

計算することが苦手

例　○繰り上がりや繰り下がりが分からない。(誤りが多い)
○足し算や引き算の暗算ができない。
○かけ算の九九がなかなか覚えられない。(思い出せない)
○計算することに時間がかかる。
○筆算となると、桁がずれてしまい間違える。
○文章題が解けない。

【考えられる困りの背景】
- 数の概念が未熟である。(10の合成分解がはっきりしないなど)
- 記憶することが苦手である。
- 順序立てた思考が苦手である。
- 位置関係の捉え方が弱い。(筆算などの時)
- 文章を読み取ることが苦手なため、問題の意味が捉えられない。

手だてや合理的配慮のヒント

□操作活動や視覚的な補助手段を取り入れる。
- 具体物を操作しながら、計算の手順を言語化する。
- 繰り上がりや繰り下がりの数字を赤色のペンなどで書き込み、確認させる。
- マス目のノートやプリントを活用することや、各位の数を色別に示すなど、桁をそろえる工夫を図る。
- 内容を捉えやすくするために、要点やキーワードに線を引かせる。
- 問題文を絵や図で表したり、自分の言葉で説明させたりする。
- 電卓の使用を検討する。

不注意によるミスが多い

例　○他のことに気が向いてしまい、集中して聞くことができない。
○集団の場面では、取り組むことが分かりにくい。
○忘れ物が多い。
○整理整頓が上手くできない。
○誤字や脱字が多い。
○理解しているが、間違い（ケアレスミス）が多い。

【考えられる困りの背景】
・聴覚的な情報だけでイメージすることが苦手である。
・見えるものや聞こえるものを整理することが苦手である。（必要な音や声を選択すること）
・聴覚的な情報を短い時間、記憶しておくこと（短期記憶）が苦手である。
・集中の持続が短い。
・入ってきた情報（刺激）にすぐ反応するため、取り組んでいることに集中しづらい。

手だてや合理的配慮のヒント

□子どもの特徴に合わせて忘れないような手だてをとる。
・メモや連絡帳を活用する。活動や学習内容の流れを板書する。
・物を置く場所を決めておく。（見て分かるようにする）
□指示は短く、分かりやすくする。
・一つの指示による行動ができたら、次の指示を出すようにする。
・指示はポイントを絞って短めに出す。
・注意を向けてから声をかける。（声をかける、肩に手を置くなど）
・分かりやすい表現を使い、理解できているかを確認する。
□視覚的な補助手段を用いる。
・必要なものをリストにして目につくところに貼っておく。
・写真、絵カード、文字、マーク、シール等を活用する。

落ち着きのなさが目立つ

例　○自分の順番が待てない。（割り込みをする）
○授業中であっても話したくなることや、友達の持ち物が気になり我慢できない。
○体育の時間など列に並んで待つことができない。
○つまらなくなると、教室の外に行きたくなる。
○見たり聞いたりしたものに興味を引かれ、すぐに席を立ってしまう。

【考えられる困りの背景】
・自分の順番が来るまでの間、我慢強く待つことが苦手である。
・衝動をコントロールする力が弱い。
・気になるものや興味を引くものに過剰に反応してしまう。
・苦手な学習で興味や関心がもてない。
・何に取り組んでよいのか分からない。

手だてや合理的配慮のヒント

□順番で行うことを理解できているかどうかを確かめる。
□周りの迷惑になる行動は制止する。その上で「何をしたかったのか」を確認し、「相手はどんな気持ちか」を聞き、「どのようにするとよいか」など、場に応じた適切な対処方法を教える。
□落ち着いて学習できる環境作りをする。
・気が散る原因を少なくする。（気になるものを手元に置かないなど）
・座席の位置を工夫する。（教師が注意を喚起しやすい位置、モデルにできる友達の隣など）
□学習中、本人が「できた」と達成感をもつ経験を重ねる。
・課題の組み方（スモールステップなど）を工夫したり、課題の量を調整したりする。
・活動の終わりの見通しをもたせる。
・「手伝ってほしい」の支援を求めるサイン（言葉、挙手、カードなど）を決める。

会話がうまくかみ合わない

例　○教師や他の子どもの発言中に割り込んで話しをする。
○自分が興味のあることについて、一方的に話しをする。
○場面や状況に関係なく、突然独り言や決まり文句を繰り返し言う。
○相手の気持ちが分かりにくい。
○含みのある言葉の本当の意味が分からず、表面的な言葉通りに受け止めてしまう。

【考えられる困りの背景】
- 状況を判断する力が弱く、話してよい状況かどうかを判断することが苦手である。
- 言葉を理解する力が十分ではなく、相手の話している内容や言葉の意味が分かりにくい。
- 音声に対する注目の困難さがあり、特定の言葉だけが強調されて、話の全体がつかめない。
- 表情など非言語的なコミュニケーションを理解する力が弱く、全体の雰囲気を読み取ることが苦手である。

手だてや合理的配慮のヒント

□状況を判断できるよう支援を行い、話したくても我慢する力を育てる。
- 発言回数をコントロールする。（発言カードの枚数だけ発表できるなどのルール）
- 「話す、聞くときの約束」を教室に掲示する。

□分かりやすい言葉とともに、具体物、絵カードなどの視覚的手がかりを同時に用いる。
- 短い文章で具体的に指示する。
- 肯定的で分かりやすい表現を使う。
- 選択肢で応答できる聞き方をする。
- 日常生活で必要となる要求や依頼に関する表現方法を具体的に教える。

□基本的な対人関係の知識やスキルを習慣的に身に付ける。
- 役割や順番を守り、簡単なルールが理解できるような活動を意図的に取り上げる。

友達とのトラブルが多い

例　○友達との関わり方が分からず、嫌われるような行動が多い。
○場の状況にふさわしくないことや、見たまま、思ったままの事実を口に出して言ってしまう。
○ささいなことですぐに喧嘩になる。
○ゲームに勝ちたくて、都合のいいようにルールを変えトラブルになる。
○友達に注意されるとますます興奮してしまう。

【考えられる困りの背景】
- 自分の気持ちをコントロールし、相手に合わせる行動が苦手である。
- 友達の感情が分かりにくい。表情が読み取れない。
- 自分が周囲からどのように見えているかが分かっていない。
- こだわりが強くて友達と協調できない。
- 遊びなどのルールが分かりにくい。

手だてや合理的配慮のヒント

□どんな時にパニックを起こしやすいのか、その原因と引き起こす環境を分析する。

□予定や手順の変化に対する不安は、周囲が考える以上に強いことを理解する。
- 関わり方を含めた環境を調整する。

□こだわりでは、周囲がやめさせようとすることでさらに意識してしまうことがある。

□自分の気持ちをコントロールし、相手に合わせた行動がとれるようにする。
- 場面や状況を捉えられるようにする。

□社会的な判断力を身に付け、集団のルールに従った行動がとれるようにする。
- 善い行動をしたときは承認し、適切な行動が増えるようにしていく。
- よいこと、悪いことの判断ができるようにしていく。

(3) 指導の実際

具体的な手だてや合理的配慮は「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」支援するか役割を明確にして指導を行うことが必要です。

一日の日課と指導の形態例

	教科名と単元
1	理科 「電気のはたらき」
2	算数 「がい数」
中休み	
3	音楽 「拍のながれにのってリズムを感じ取ろう」
4	国語 「動いて、考えて、また動く」
給食・昼休み	
5	体育

「ティーム・ティーチングによる指導」
「学びのサポーターを活用した指導」

主な指導内容
・四捨五入して、一万の位までの概数にする。

〈指導の手だて〉
・位の区切りを書く。
・一万の位で表す概数では、千の位で四捨五入することを個別指導し、正しくできているか確認する。

「学びのサポーターを活用した指導」

主な指導内容
・拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって表現する。

〈指導の手だて〉
・サポーターと一緒に拍打ちをする。
・楽譜には旋律のまとまり毎にマーカーを付けたり、囲んだりして一緒に歌ったり演奏したりする。

「学級担任による配慮した指導」

主な指導内容
・「動いて、考えて、また動く」を読み、事実と意見などに分け、文章の構成や筆者の考えを捉える

〈指導の手だて〉
(全体の授業の中で工夫)
・事実や説明の部分は青、意見は赤など、色を分けて線を引く。
・写真などを取り入れた学習シートを使用する。
(個別の支援)
・やさしい言葉で言い換える。
・文末表現などに着目させながら、一緒に音読する。

〈金曜日：放課後〉

オープン教室	主に、「算数」、「国語」に関する個別学習

「ふれあいルーム(放課後指導)」

主な指導内容
・宿題のプリント
・何についての新聞を作りたいか、考えて書く。

〈指導の手だて〉
・教科書を見ながら、どんなことを調べて書くのかなどを話し合う。

〈木曜日：放課後〉

通級による指導	遊びやゲームを通した言語指導

「通級による指導」

主な指導内容
・なぞなぞ遊び
・ボールを投げて打つ　　等

〈指導の手だて〉
・リラックスする雰囲気
・勝った時、負けた時の気持ちを受け止める。

⑷　指導のポイント

ＬＤ（学習障がい）への支援

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

平成11年7月文部科学省「学習障害児に対する指導について（報告）」より抜粋

【対応のポイント】

（＊基本的な考え方は、ADHD、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がいも同じ）

○個々の子どもの認知能力の特性に着目した指導内容・方法を工夫
○興味・関心をもって授業に参加できるような指導
○達成感をもてるような指導
○スモールステップによる指導

具体的な手だてや合理的配慮のヒント

音読が苦手
- マーカーなどによる色分けや、一行ずつ見えるような遮蔽（しゃへい）シートを使い、視覚的手がかりを与える。
- 文節で分かち書きされた文章を読ませる。
- 教師が一文ずつ読み、その追読をさせて文章のリズムをつかませる。

文章内容を読み取ることが苦手
- 段落ごとに題や小見出しをつけながら読ませる。
- 挿絵を利用し、絵によってあらすじをつかませる。

登場人物の気持ちを読み取ることが苦手
- 文章に書かれていることを動作化させる。
- 登場人物のセリフを考えさせ、子ども自身の言葉で発表させる。

計算はできるが文章問題が苦手
- 文章題では図を描く習慣を付けさせる。

板書を写すのに時間がかかる
- 少しずつ写させる。
- 書く部分が分かりやすいように色チョークなどで目印をつけておく。
- 板書計画に基づいたワークシートを用意する。

文字の大きさが一定ではなくバランスもとれない
- 十字リーダー入りのマス目のノートを使用する。
- マス目の中に書き始めの点、書き終わりの点を打つ。

指示や説明を聞くことが苦手
- 指示は要点を絞って短く話す。話した後には要点を板書し、視覚的に分かりやすいようにする。
- 話し終わったら内容の確認をする。

ＡＤＨＤ（注意欠陥／多動性障がい）への支援

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

平成15年3月「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」参考資料より抜粋

【対応のポイント】

○適切な行動に向けての自己管理能力を高めるため、生活技能（主として対人関係技能）を身に付けることが大切

○自信回復や自尊心（自己有能感）の確立、さらには自分で自分の行動を振り返るなど、他者が自分をどう捉えているのかを理解することが大切

具体的な手だてや合理的配慮のヒント

話を聞いていない

・話にまつわる具体的な絵や文字カードなどの教材を用意し、順に見せながら話をする。
・時々名前を呼んで注意喚起しながら話す。
・指示代名詞を用いないで具体的に話す。

集中力がない

・刺激となる掲示物等を工夫する（前面には掲示しない等）など、教室環境を整える。
・視覚情報に集中させるための配慮をする。
・集中できる時間を考慮した内容や量の課題を設定する。
・児童生徒の関心のある題材を使ったり、紙芝居やテレビ画面など注目しやすい一定の枠を活用したりする。

物をなくすことが多い

・持ち物に目印を付けて区別しやすくする。
・「取りあえず入れておく箱」を用意し、時間のある時にゆっくり整理させる。
・指示する際には、「１、～。２、～。」というようにポイントを絞って話す。
・帰る準備をする際に、するべきことを確認する手順書を見ながら下校準備をさせる。

授業中の離席が目立つ

・学級の学習ルールに沿って自分の席を離れたり、体を動かしたりする機会を作る。
・離席した時は、どうしたのか声をかけ、本人に理由を自覚する機会を設ける。
・目印になるものを置くなど、基本的に手や足を置いておく場所を決める。

過度に話してしまう

・発言カードや、発表順番札を使用するなど、発言のタイミングが分かるようにする。
・質問内容を理解させた上で、発言のポイント等を明確にしてから話すように促す。
・「声の大きさ」「会話の順序」「話合いの仕方」「発表の仕方」などのルールを学級全体で決め、それに沿って発表させる。

集会場などで大声で話し始める

・ロールプレイを活用し、本人・友達・先生などの気持ちを言葉で表現して理解を促す。
・話し方や聞き方の約束や合図を決めて練習する。

並んで待つことができない

・分かりやすくラインを引いて示すなど、並んだり待ったりする時間や場所をはっきり決める。
・長く待たないでよい状況を作り、待つ負担を軽減しながら、待つことに慣れさせる。

人の邪魔をする

・トラブルになった状況を書き表し、何がよくなかったのか、相手の気持ちを説明したり、どこでどうすべきだったかを考えさせたりする。
・機会を捉えてマナーについて具体的に教える。
・攻撃的な感情が生じた時には、その場から離れることを教える。

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がいへの支援

自閉症とは、３歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

平成15年3月「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」参考資料より抜粋

【対応のポイント】

○光や音、身体接触などの刺激への過敏性があること、問題を全体的に理解することが不得意であること、過去の不快な体験を思い出してパニック等を起こすことなどの特性に対応することが大切

○その特性に応じた指導ができるように指導の場に関する検討が必要であり、通常の学級における補充的な教育内容やその指導方法等について検討が必要

具体的な手だてや合理的配慮のヒント

人との関わり方

○場の状況や相手の気持ちなどの理解を促すために

・具体的な場面ごとに、場の状況、相手の感情や立場について説明し、どのような反応をすればよいか、相手の意図をどう解釈すればよいかについて、具体的に説明して理解を促す。

○場の状況や相手に応じた行動を促すために

・その場の状況や相手に応じた関わり方を具体的に示す。

・相手と関わりがもてる遊び方や具体的な指標を示すなどの工夫をする。

コミュニケーションへの支援

○話を理解したり、気持ちや出来事などを表現したりすることができることに対して

・言葉による指示や説明だけでなく視覚的な情報を合わせて提示する。

・周囲を見て合わせているのか、自ら判断して行動しているのか、行動の基準がどこにあるかを見極める。

・言語表現だけでなく、文字や非言語的サイン等を用いるなど表現方法のレパートリーを拡大できるようにする。

○同じことを何度も聞くことに対して

・楽しみにしていることよりも不安に感じていることが多いことを理解する。

・活動等について視覚的に確かめることができる情報を提示するなど、見通しをもたせて不安感を取り除く。

○特徴的な話し方に対して

・主語と述語の関係について、絵カードを活用しながら理解を促し、さらに目的語や助詞を加えながら内容を広げ言葉の理解力を高める。

興味を広げるような支援

○予定の変更に対応できないことに対して

・視覚的な情報を活用して、見通しがもてるようにする。

・予定を変更する場合は、子どもにとって分かりやすい手段を用いて事前に伝える。

○こだわりに対して

・こだわりを将来にわたって容認できるものと、できないものに分け、容認できないこだわりの内容については、少しずつ不確定要素を組み込み対応を求めるなど、柔軟性を高めていく。

○ゲームの勝敗や順番に対するこだわりに対して

・こだわりの原因や背景を探り、勝敗などよりゲームを楽しむという価値観があることを知らせる。

感覚の過敏性に対して

・原因となる刺激を除くとともに、どうしてほしいかという自分の気持ちを表現する方法を伝える。

・我慢することだけを求めたり、無理をさせたりしない。